

教育目標		たくましく心豊かな子どもの育成						
重点目標		・幼児が生き生きと自信をもち、主体的に学び合う保育をすすめる。 ・地域に開かれた幼稚園づくりをする。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	生活習慣の確立	・基本的な生活習慣を身につける。 ・園と家庭が連携して、生活習慣の確立を目指すことができるようにする。	・自分から挨拶をすることや気温に合わせて衣服の調節をすること、手洗いうがい、歯磨きを毎日の習慣にすること等をわかりやすく子ども達に伝えていく。 ・健康カレンダーを定期的実施し、健康についての意識が高まるように家庭にも啓発していく。	・相手の目を見て自分から挨拶ができるようになる。 ・手洗いうがい、歯磨きの習慣がつくように、みんなで行う時間をとり、確実に身に付けることができるようにする。 ・保護者アンケートにおいて「早寝・早起き・朝ご飯の習慣がついている」と回答する割合が80%以上になる。	B	・「早寝・早起き・朝ご飯の習慣がついている」という項目は、90%以上という回答であった。 ・気温に合わせて衣服を調節する意識が低いので、今後も啓発していく。	・基本的な生活習慣が身につくように、ほけんの話を月1回実施し意識を高めていく。 ・今後も家庭と連携しながら生活習慣を整えられるようにしていく。	・あいさつや基本的な生活習慣を幼児期から、そしてその保護者に啓発していく取り組みを丁寧に行っていることがすばらしい。非常に大切なことである。
	聞く力・話す力の育成	・教育の基本である「聞く力、話す力」をつける保育を工夫する。	・子ども達が自分の言葉で話したり、相手の話を聞いたりできる場をつくる。 ・グループ活動を意図的に実施し、お互いの意見を出し合えるような環境を作る。 ・毎日絵本の読み聞かせをする。 ・家庭における絵本の読み聞かせの機会をもてるように週に1回絵本貸出の日をもつ。 ・保護者サークルによる絵本の読み聞かせを活用する。 ・就学に向けてもつながるように、池尻小学校でも行われている「ポリュームゼロ」を幼稚園でも取り入れていく。	・保護者アンケートにおいて、「人の話を聞く力や、自分の思いや考えを言う力がついてきたと感じる」と回答する割合が80%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「絵本を読むことが好きになっている」と回答する割合が80%以上になる。	B	・「人の話を聞く力や、自分の思いや考えを言う力がついてきたと感じる」というアンケートの項目については、90%を超える回答であった。日々の保育で話を聞く姿勢を意識できるようにしてきたことで、成果が出た。しかし、まだ話を聞くための集中力が持続しない子どももいる。 ・「絵本を読むことが好きになっている」、「自分や他者を大切にしている気持ち(自尊心)を学んでいる」という項目において肯定的回答の割合が80%以上であった。	・伝えたいことや伝えたい人が増え、自ら話したいという気持ちが高まるように保育を工夫していく。 ・友達とグループで意見を出し合えるような環境を作り、相手の思いを聞くことや自ら意見を伝える経験を増やしていく。 ・様々な絵本に親しむためにも教師の援助を工夫し、絵本を読むことを習慣づけていく。	・職員が日常子どもの話をしっかり聞き、子どもたちに話を聞く姿勢を育てようと思意識したことが重要である。また、継続することが必要である。
	主体性の育成	・心をゆさぶる環境の構成と教師の援助を視点とし、主体的に対話的で深い学びが生まれる保育実践を進める。	・研究テーマを「幼児期における主体的・対話的で深い学びを目指す保育実践～心をゆさぶる環境の構成と教師の援助～」と定め、講師招聘の研修会や事例研修会を毎月実施し、学びについての研修を進めていく。 ・クラスだよりや学級懇談会などで、子どもの学びを具体的に伝えていく。 ・園内研修会の回数を増やし、教師間で保育や、それぞれの保育室の環境構成を見合う機会をもつことで、資質向上を図っていく。	・保護者アンケートにおいて「自ら感じ、考え、行動するなどの主体的な行動が増えてきている」と回答する割合が80%以上になる。 ・講師招聘の研修会や事例研修会を毎月行い、教師の質の向上を目指す。	A	・アンケートにおいて「自ら感じ、考え、行動するなどの主体的な行動が増えてきている」と回答する割合は90%以上であった。 ・講師招聘の研修会や事例研修会を月1回実施することができ、心をゆさぶる教育について学び合うことができた。 ・保育の中で導入や振り返りについて学び合い、意欲を持って活動に取り組む環境や教師のかかわりについて工夫することができた。	・講師招聘の研修会や事例研修会を継続的に実施し、主体的に対話的で深い学びを生む保育実践についての研究をさらに深める。また、授業の導入やふりかえりを意識し、教師主体ではなく、子ども主体の教育活動ができるように意識し、取り組んでいくようにする。 ・職員間で互いに話をすることで、心をゆさぶるための環境の構成や教師の援助を工夫する意識を高めていけるようにする。 ・園内研修会を活用すると共に、普段からそれぞれのクラスを見合う機会をもつことで、資質向上を図っていく。	・研究として職員が一丸となって取り組み、保護者にも機会をのびさせず伝え、共に子どもの主体的、対話的で深い学びの育成に取り組んでいることが、成果となって表れていると思う。 ・幼・小連携を今後とも続けさせていきたいと思います。
	特別支援教育の推進	・個別支援計画を作成し、計画に基づいた実践評価を進めていく。 ・特別支援対象児の支援について職員間での共通理解を図る。 ・保護者同士のつながりを深める。	・拠点園のみずほ幼稚園への通級の日を利用して、感覚遊具を体験したり小集団プレイに参加できるようにする。 ・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月2回実施し、専門的な教育活動が充実できるようにする。 ・特別支援対象児に限らず、配慮が必要な幼児についても、職員間で共通理解を図る。 ・学期に1回以上個別指導計画に基づき、個別懇談を実施する。 ・小学校との連携において、指導方法の工夫や教師同士が互いの教育内容について相互に理解をする。	・みずほ幼稚園通級への参加する割合が80%以上になる。 ・月1回以上特別支援対象児の話し合いの場をもつ。 ・保護者アンケートにおいて「幼稚園は一人一人の子どもを大切に、それぞれの課題や特性に応じた教育を行い、共に育ち合えるようにしている」と回答する割合が80%以上になる。	A	・個別の支援を必要とする子どもの情報交換をすることで、全職員で共通理解を図り保育に努めることができた。今後も教師間での連携を大切にしている。 ・みずほ幼稚園への通級は、毎回親子で楽しみにして参加し、参加率も80%以上であった。 ・保護者アンケートの、「幼稚園は一人一人の子どもを大切に、それぞれの課題や特性に応じた教育を行い、共に育ち合えるようにしている」という項目においては、90%以上の保護者から肯定的な回答があった。 ・卒園生の保護者から小学校についての話を聞かせてもらう懇談会を開き、様々な不安を解消したり、保護者同士のつながりを深めることができた。	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月2回実施し、専門的な教育活動が充実できるようにする。 ・小学校の引き継ぎでは、対象児に限らず、必要な幼児に関しては日々の様子と共に援助や保護者との関係などもしっかり伝えるようにする。 ・支援や援助について共通理解を図っていく。 ・個別の支援を必要とする子ども以外の保護者にも啓発を進めていく。	・丁寧な幼稚園から小学校への引き継ぎをして頂きありがたい。日常の交流を通して共に見守る体制がとれるように今後ともしていきたい。
豊かな心と健やかな体の育成	道徳教育の推進	・自分に自信を持ち、大切にできる子どもに育てる。 ・相手の気持ちを感じ思いやる心を育む。	・自尊心を高める為に、教師のかかわり方を工夫する。 ・ペア活動を計画的に行い、異年齢のかかわりも意図的につくっていく。	・「自分や他者を大切にしている気持ち(自尊心)を学んでいる」と言う項目において肯定的回答の割合が80%以上になる。	A	・「自分や他者を大切にしている気持ち(自尊心)を学んでいる」と言う項目において肯定的回答の割合が90%以上であった。 ・教師自身が、子どもの気持ちを探り、思いを大切にしている保育実践を行うようにする。	・自尊心や自己肯定感が高まる教師のかかわり方や環境の構成を工夫する。	・保護者のことも子どものことも先生方が認められておられることが、自尊心の向上につながっていると思う。
	自然環境の活用	・五感を通して自然の美しさを感じたり、生活の中に取り入れたい。 ・四季の移り変わりを感ぜられるように環境を工夫する。	・五感を通して直接体験ができるような環境作りを行う。 ・子ども達が四季を感じることができるように、季節の花や野菜、草花や虫等の生き物に関心がいくようにする。 ・不思議に思ったことやおもしろいと思った気持ちに共感し、子どもの気付きを大切にしている。 ・教師が自園の園庭にどのような自然があるのかを学び、積極的に保育に取り入れていけるようにする。	・保護者アンケートにおいて「自然物に触れる機会を通して、以前よりも自然環境に興味を示すようになった」と回答する割合が80%以上になる。 ・四季を感じる自然を積極的に環境に取り入れ、子ども達が興味・関心が持てるようになる。 ・保育室の環境を月毎に見合う時間をとり、自然を取り入れた保育を意図的に進めていく。	A	・「自然物に触れる機会を通して、以前よりも自然環境に興味を示すようになった」と回答する割合は90%以上であった。 ・自然物に触れられるようなコーナーや、思わず調べたいような動き変える環境を工夫し、子ども達の自然物への興味・関心が高まるようにできた。	・五感を通して直接体験ができるような環境作りをさらに進めていく。 ・不思議に思ったことやおもしろいと思った気持ちに共感し、子どもの気付きを大切にしている。 ・教師自身が、自然に興味を持ち、積極的に保育に取り入れていくようにする。	・すばらしい環境整備、これからは様々な体験をさせて、興味関心を育ててほしいと思う。
	健やかな体づくりの推進	・本園の特色でもある芝生の園庭を活かし、十分に体を動かす遊びを保育の中に取り入れる。	・芝生の広い園庭を活かして、裸足になって気持ちのよい感触を味わいながら思い切り体を動かして遊べるように1日1回は思いっきり走る時間や体操をする時間をつくる。 ・園庭にある固定遊具や縄跳び、フープ、ボールなどを使った遊びや鬼ごっこなどの遊びを問い入れ、楽しみながら体力向上を図っていく。 ・遊戯室や保育室で律動する時間をつくり、体の細かい部位を使ってしっかり動かす経験を積み上げるようにする。	・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、体力向上を目指して、楽しく運動遊びに取り組む機会をつくっている」との項目の回答が80%以上になる。	A	・[幼稚園は、体力向上を目指して、楽しく運動遊びに取り組む機会をつくっている]という項目では100%の保護者から肯定的な回答があった。 ・うんてい・登り棒・鉄棒などの固定遊具にも挑戦できるように、継続的に保育に取り入れるようにしてきた。 ・子ども達も積極的に裸足になり、芝生を活かした保育実践を積み上げていく。	・園庭にある遊具(うんてい・登り棒・鉄棒など)を活用し、目標を持つことや縄跳びやボール、フープなどを使った遊びを取り入れ、友達と一緒に楽しめる時間を増やし、体力向上を図っていく。 ・毎日体操や律動の時間をつくり、体を動かすことが習慣となるようにする。 ・持久力やボールを投げる力がつくように、保育の中で取り入れていく。	・のびのびと自由に遊べる環境を整えておられてすばらしいと思う。維持は大変だと思うが、今後保護者の協力を得て継続してほしい。
	健康教育の推進	・自分の体に興味を持ち、風邪などをひかない取り組みを自分から行うようにする。 (手洗いうがい、早寝・早起き・朝ごはん等) ・安全に生活することや衛生面についても自分で気をつけることができるように、意識を高める。	・当月の子ども達の姿や意識させたいことを考え、月1回の「ほけんのはなし」を工夫する。 ・健康教育についての「健康カレンダー」を学期に1回実施し、子どもが自分の健康について関心が高められるようにする。 ・保健室の掲示を工夫し、熱中症やインフルエンザ予防の子ども達の意識を高める。 ・ほけんの話の内容や様子をほけんだより、ホームページで伝え保護者へ啓発していく。	・「健康カレンダー」や「ほみがきカレンダー」の回収率100%を目指し、取り組みの肯定回答の割合が80%以上になる。 ・自分の健康に興味を持つように、毎日の生活の中で啓発していく。	B	・定期的に健康カレンダーを実施し、家庭に啓発も進めてきた。健康カレンダーの回収率は97%であった。また、肯定的な回答が80%以上であったため、引き続きより一層の定着をはかる。 ・昨年よりもほけんカレンダーの回収率を2回増やすことができた。意欲的に取り組んでいる様子が見られた。 ・ほけんの話の内容を毎回ホームページに更新することができた。今後も継続し保護者啓発につなげていく。	・けんこうカレンダーを実施したことで、健康に対する意欲が高まった。今後も内容を工夫し、さらに啓発を進めていく。 ・ほけんの話の内容をほけんだよりやホームページで伝え、家庭での啓発につなげていく。また、保健室の掲示も工夫し、子ども達が意識して自分の健康について考えて行動できるようにしていく。 ・健康の視点からも早寝・早起き・朝ごはんの大切さを子どもと保護者に啓発していく。	・定期的な「ほけんのはなし」や「健康カレンダー」の取り組みの積み上げが成果に表れていると思う。
開かれ信頼される学校園	情報の発信	・ホームページやクラスだより、幼稚園だより等で定期的に情報を発信する。 ・11月にオープンスクールを実施する。(幼稚園ウィーク)	・園での行事を中心に、日々の保育についてもホームページで発信していく。 ・ホワイトボードやクラスだより、幼稚園だより等で子ども達の様子を伝える。 ・地域の集いや行事等に参加し、園行事や園児の様子をアピールする。	・行事担当者は、行事についてホームページに記事をあける。 ・毎月10回以上は、ホームページを更新する。 ・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、ホームページを通して、園での教育内容について視覚的にわかりやすい情報として保護者や地域に発信している」と回答する割合が、80%以上になる。 ・オープンスクールを実施して保育を公開する。	A	・「幼稚園は、ホームページを通して、園での教育内容について視覚的にわかりやすい情報として保護者や地域に発信している」とアンケートで回答する割合が、99%以上という結果であった。 ・行事後すぐにホームページに保育の様子をあげることで、家庭でも園のことを話すきっかけになっていた。	・園の教育内容を理解してもらい、保護者と連携して教育活動が推進できるように、情報発信に引き続き取り組んでいく。 ・今後も継続してクラスだよりやホームページなどで保育の取り組みや園の情報の発信に取り組んでいく。	・ホームページやクラスだより、とても丁寧に取り組みや保育の願いが発信されていて保護者の理解につながっていると思う。
	子育て支援	・幼稚園が子育てについて共に学び合うことができる場になる。 ・2・3歳児プレ保育や子育て支援事業など、未就園児が参加できる保育を計画的に実施する。	・園児と未就園児とのふれあいひろば「みんなのひろば」2歳児対象「めばえ」3歳児対象「ばんだくみ」を年7回実施する。 ・保護者と園長の懇談会として誕生会後に毎月「パースデートーク」を実施する。 ・未就園児や地域の人々にも園行事に積極的に参加を募る。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子どものことを相談しやすい」と回答の割合が80%以上となる。 ・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、みんなのひろばやめばえ組・ばんだくみ組、園庭開放、わくわくタイム、幼稚園ウィークなど、開かれた幼稚園公開や子育て支援を行っている」と子育て支援を肯定する回答の割合が80%以上になる。	B	・保護者一人ひとりに真摯に向き合い、子育てについての相談を丁寧に行うようにした。 ・子どもが自分で生き抜く力が付く為に、幼児期しておくべきことや大人のかわり等を共に考え合う場を作った。 ・2歳児「めばえくみ」3歳児対象の「ばんだくみ」の活動が定着し、地域への発信ができた。より多くの人に参加してもらえるように、さらに内容を充実し、呼びかけていく。	・来年度は3歳児保育や預かり保育が始まるので、さらに充実した子育て支援を行えるようにしていく。 ・2歳児対象のめばえくみやみんなのひろばにおいて、園児との関わりがもてるような内容の工夫をし、保護者同士のつながりが深まるようにする。	・大変だが、大切な取り組みだと思う。

○学校関係者評価総括  
1年を通して、子ども達はよく育っていると感じる。教職員のチームワークも良く、子ども一人一人とよく関わり保育されている。保護者からの信頼も厚く、いい関係性が築けている。

○次年度に向けた重点的な改善点  
・基本的な生活習慣の確立を目指して保護者啓発を進めながら日々の保育に取り組む。  
・芝生の園庭を生かした継続した保育に取り組む。  
・研究テーマ「幼児期における主体的・対話的深い学びを目指す保育実践」にそって、心をゆさぶる、主体的に取り組む幼児を育む援助を継続して実践し研究を進めていく。  
・研究発表会に向け、職員間で話し合いを重ねる中で、教師の協同性を高めて共に資質向上を図る。